

平成 15 年 11 月 8 日

物流連 ニュースリリース

「モーダルシフトフォーラム 2004」の開催について

物流分野においても地球温暖化対策が喫緊の課題となっています。このため「グリーン物流総合プログラム」の推進が期待されていますが、中でも鉄道や海運を積極活用するモーダルシフトは有効な施策です。

当連合会は、平成 5 年より毎年各地の運輸局と共催でモーダルシフトフォーラムを開催して参りましたが、昨年の四国(高松市)での開催をもちまして全国一巡したところです。

そこで、今年度は内容を一新し「モーダルシフト・ケーススタディ」をテーマに国土交通省の「環境負荷の小さい物流体系の構築を目指す実証実験」に認定された成功事例の実際について講演を伺い、その後パネルディスカッションにより様々な角度からモーダルシフトの促進について検証していくことに致しました。

< 事例発表案件 >

【鉄道へのシフト】

- ・ アサヒ飲料(株)、日本通運(株)、日本貨物鉄道(株)

温度上昇防止機能付ウイングコンテナによるモーダルシフト実証実験

発表者：アサヒ飲料(株)

SCM部 SCM企画グループグループリーダー 藤原 慎二 氏

【海上輸送へのシフト】

- ・ 新日本製鐵(株)、日鐵物流(株)

ユニット方式による姫路(広畑)～大阪間海上輸送切替え実証実験

発表者：日鐵物流(株) 広畑支店 物流部長 村上 三保 氏

詳しくは、別紙のとおりでお申込み・お問い合わせは、事務局 慶谷・大橋までどう

ぞ(03-3593-0139)。

モ ー ダ ル シ フ ト フ ォ ー ラ ム

2 0 0 4

～ 私達はこうしてモーダルシフトを行った～

地球温暖化問題への対応が喫緊の課題となっています。物流分野の地球温暖化対策としては、「グリーン物流総合プログラム」の枠組みに従い、アウトソーシングの促進や物流拠点の効率的利用、エコドライブの推進など、物流全般にわたる環境対策を総合的に進めていくことが必要ですが、中でも、自動車に比べて二酸化炭素の排出が少ない鉄道や海運を積極活用するモーダルシフトが効果的です。

本フォーラムでは、「モーダルシフト・ケーススタディ」をテーマに、国土交通省の「環境負荷の小さい物流体系の構築を目指す実証実験」に認定された成功事例の実際について講演を伺い、その後パネルディスカッションにより様々な角度からモーダルシフトの促進について検証していきたいと思っております。ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。

日 時	平成16年12月13日(月) 13時30分 受付開始 14時00分～15時00分 講演 15時15分～17時00分 パネルディスカッション
場 所	経団連会館 11階 国際会議場(ゴールドルーム) (東京都千代田区大手町1-9-4) [地下鉄丸ノ内線 大手町駅 A1出口より徒歩1分]
主 催	(社)日本物流団体連合会 / 国土交通省

主催者挨拶

国土交通省 政策統括官 春田 謙

講 演

アサヒ飲料株式会社
SCM部SCM企画グループグループリーダー 藤原 慎二氏
日鐵物流株式会社
広畑支店 物流部長 村上 三保氏

パネルディスカッション

【パネリスト】

藤原 慎二氏 (アサヒ飲料(株)SCM部SCM企画グループグループリーダー)
村上 三保氏 (日鐵物流(株)広畑支店物流部長)
宮原 敏 氏 (日本通運(株)通運部長)
杉野 彰 氏 (日本貨物鉄道(株)執行役員営業部長)

【コーディネーター】

高橋 洋二氏 (東京海洋大学教授)

